歴史の道探訪

高野山町石道をたずねて

［高野山町石道と里石］ 九度山駅（南海高野線 九度山町）〜弘法大師御廟（高野町） ※六本杉〜丹生都比売神社〜二ツ鳥居ルートも記載

全国にこれだけ揃った町石もめずらしく、昭和40年3月国の史跡に、平成16年7月世界遺産に指定された。なお、町石とともに、36町（約4km）ごとに里石がたっている。町石は高野山根本大塔を、里石は慈尊院を基点としている。

聖地へと続く 道しるべをたよりに いざ出発！

■真田庵

真田庵は「善名称院」といい、豊臣方の智将真田幸村ゆかりの寺で、境内には、父昌幸の墓や宝物館があり、4月下旬頃、ぼたんの花が咲き、毎年5月5日には真田まつりが行われ、真田十勇士などの武者行列が町をねり歩く。

■180町石

慈尊院多宝塔の南、石段の中ほどにある180町石は、表参道をのぼる場合、最初の町石である。金剛界37尊、胎蔵界180尊をかたどった仏種子を表わす梵字は小川僧正信範、町数、施主名、年号などは世尊寺経朝の書によるものである。

■慈尊院

高野山が年貢の徴収や外部との交渉の場として山麓においた寺務所で、高野政所ともいわれた。後に弘法大師空海が母公（阿刀氏）の没後、伽藍を建て、弥勒菩薩を安置したため、以後女人禁制の高野に対し、女人高野ともよばれるようになり女性の参拝客も多い。

■丹生官省符神社

慈尊院から119段の石段をのぼった高台にある。空海が慈尊院創建の時、その鎮守社として丹生都比売、高野御子の二神等を祀った神社。社殿は室町末期の建立で重要文化財に指定され、その他多数の文化財も収蔵されている。

■勝利寺

弘法大師厄除観音を祀る寺。高野表参道の玄関口で、貴族、武士、庶民の宿泊者や参詣者でにぎわったと伝えられる。隣接地には弘法大師空海が伝えたといわれる高野紙の伝承活動施設「紙遊苑」があり、紙すき体験ができる。

■展望台

朝日スポット

朝日・夕日100選にも選ばれている展望スポットです。紀の川流域が一望でき東から橋本市、かつらぎ町と南には高野山があり、見晴らしはすばらしい。

■163町石付近

眼下に紀の川平野を見下ろし、和泉山脈を一望できる町石道の代表的な景勝地である。雨引山分岐まで登り坂が続く。

■144町石と1里石

むかって左は144町石。右は慈尊院から、1里（約4km）の距離を示す里石。

■六本杉峠

この六本杉の名称は古くから遣っているらしいが、六本だけ杉があったのではなく、ここに大杉の美事な並木が続いていたといわれている。神域丹生都比売神社へも通じる道として日常の利用者が多かったとされている。

天野の里 〜歴史と伝説の宝庫〜

■西行堂

高野山が女人禁制であったことから出家して、いつの日か逢えることを楽しみに高野の麓に住む人が多く、滝口入道を慕い続け19歳で亡くなった横笛、平家物語、源平盛衰記の悲しい物語にまつわる有王丸の墓や西行の妻子の供養塔である宝篋印塔などがある。

■丹生都比売神社

祭神、丹生都比売命は天照大神の妹君とされ延喜式内大社だった。空海が、この神の子、高野明神（狩場明神）が飼っていた黒白2匹の犬に導かれて高野にのぼったという話は有名で、以来高野の守護神として敬われた。

■八町坂

丹生都比売神社と高野山町石道を結ぶ参詣道。町石道との合流地点には拝社の遙拝のための二ツ鳥居が建てられている。

■二ツ鳥居

弘法大師空海が建立されたと伝わっているこの鳥居は、二つとも高さ約6mの花崗岩製、一脚の重さ約4.5トン。現在は鳥居に額はないが、記録によると丹生大神を祀る丹生都比売神社の鳥居とされている。

二ツ鳥居の近くにある休憩所。天野の里が一望できる展望台も近くにあり、疲れた体を癒すには絶好のポイントです。

■113町石と神田応其池

この地区は神田と呼ばれ、古来丹生都比売神社のご供米を作る場所と定められたため、この地名となる。桃山時代、豊臣秀吉公のころ応其上人は、その米作に最も重要な養水の保存にと、この大池を開築され、なお、水の神、雨引の神といわれる善女竜王を池の半島に祀り込めたと伝えられている。

■神田地蔵堂

地蔵堂は横笛が出家後、滝口入道に一目あいたい女心から、時々このお堂へ歩を運び入道を待ったと伝えられている。また、ここには、弘法大師、子安地蔵、応其上人が祀られている。

■二里石

■三里石

■四里石

弘法大師空海の伝承を伝える三石

■袈裟掛石

鞍のような形をしているので鞍掛石ともいう。弘法大師空海が御袈裟を掛けられたともいわれ、この石からは高野山の清浄結界となる。この石の下をくぐれば長生するとも言い伝えられている。なお、この石は、袈裟掛石、鞍掛石、くぐり石の3つの名称がある。

■押上石

弘法大師空海の母公が結界を乗り越え入山されようとした時、激しい雷雨が火の雨となり親孝行の大師は、この大磐石を押し上げ母公を隠まったといわれている。両手の跡が残っている。

■鏡石

27町石近くの険しい所にある。面が鏡のように平らな石で、この石の角に座って真言を唱えるとき、必ず悉地を得られる（成就する）とのいわれがある。

国道480号沿いにある町石

■37町石

■38町石

■39町石

いにしえの 時空を経て開かれた 山上の大宇宙 人々を魅了する 謎を解き明かそう！

■大門

金剛力士像

夕日スポット

密教の都へタイムスリップしたような夕陽がみれる。

大門は高野山一山の総門で、高さ25.8m、法橋運長作の金剛力士像を左右に安置した重層の楼門。
現在のものは、宝永2年（1705）に再建され、昭和56年から解体修理が行われ、昭和61年10月落慶。深みどりの杉・檜の木立に、朱色の楼門が城風堂々とそびえ立つ姿は、山中随一の壮観。
また門前からの展望が素晴らしく、晴天の日は遠く加太の海、淡路島が眺望できる。

■根本大塔

真言密教の根本道場として創設され、高野山全体の中心をなすのが壇上伽藍。奥之院とともに高野山の一大浄域であり、その中心である根本大塔は高さ48.5mの威容を誇る。

■金堂

■御影堂

■御社

◀慈尊院側1町石

慈尊院側1町石は安永2年5月（1773）女院大后寄進。中門より西の境内杉林の中にある。

奥之院側1町石▶

伽藍内愛染堂前の左側にある。大正2年、秋の再建。

■金剛峯寺

高野山真言宗の総本山で、山上のほぼ中央にある。弘法大師空海が高野山を開創した当時は、全域を金剛峯寺と呼んだ。現在は高野山第二世座主真然大徳（伝灯国師）の期所で、文禄2年（1593）豊臣秀吉が亡母を供養するために建立された青巌寺・興山寺を明治2年に合併し、全国の末寺を代表する総本山となった。

■苅萱堂

苅萱道心と石童丸の伝説ゆかりのお堂。「石童丸物語」は高野聖によって全国津々浦々に語られ、堂内にはこの物語を絵にした額がいくつも掛けられている。

奥之院

奥之院は、一の橋から弘法大師の御廟までの約2kmの浄域で、僧侶は必ずここで身心をととのえ礼拝する。この一の橋から奥之院までの参道の両側には何百年も経た老杉がそびえ、森厳さをたたえている。その老杉のもとには、数十万基を越えるあらゆる時代の墓碑が静かに眠っている。

■一の橋

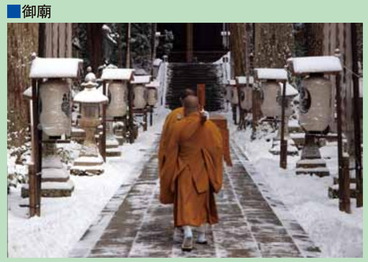
■松尾芭蕉句碑

■奥之院参道

■御廟橋

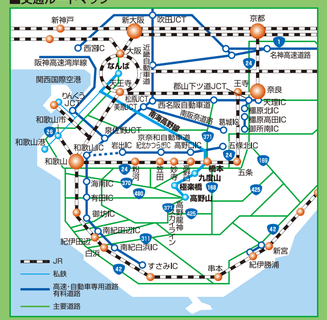
玉川清流に架けられた橋で、この橋を渡ると弘法大師空海の霊域に入ります。橋板は、36枚で金剛界37尊を表し、橋板の裏には、それぞれ仏名が記されているので、僧侶は一の橋とこの御廟橋を渡るときは必ず礼拝をする。

■御廟

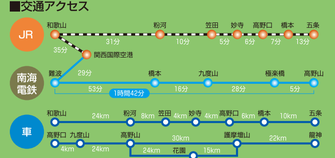


御廟は大師信仰の中心聖地。転軸、楊柳、摩尼の三山に囲まれた台地にあり、その山すそを清流玉川が流れてる。大師御入定前、この地を入定留身の地として自ら定められ、御入定後弟子たちは、この地の定窟に、生身と全く変わらない定身を収め、その上に三間四面の廟字を建て、日々のお給仕をたやさなかったと記録されてる。そびえる老杉の間から至心に祈る人々に今もなにか語りかけている。

■交通ルートマップ



■交通アクセス



歴史の道探訪
高野山町石道をたずねて

お問い合わせ

■九度山エリア
九度山町産業振興課…… TEL 0736-54-2019

■かつらぎエリア
かつらぎ町産業観光課…… TEL 0736-22-0300

■高野エリア
高野町産業観光課…… TEL 0736-56-3000

ガイドのお問い合わせは、九度山町産業振興課まで

平成27年9月現在

歴史の道 高野山町石道（ちょういしみち）

平安時代、空海が真言密教の根本道場として開創して以来、高野山は現世浄土として広く信仰を集めている。古くからこの聖地へ向かう道は幾本もあったが、それらは山に近づくにつれて合流、七つの道に集約されて山内に入っていく。その七つのうち九度山の慈尊院から山上西口の大門へ通じる表参道を高野山町石道といい、開山のおり空海が木製の卒塔婆を建てて道しるべとした道である。

鎌倉時代になって、朽ちた木の代わりに石造り五輪塔形の町石が一町（約109m）ごとに建てられた。町石は空海の生地讃岐産の高さ3m30cm角の花崗岩。山上の根本大塔を基点にし、慈尊院の石段途中を最後に180町石を建て、胎蔵界180尊にあて、さらに大塔から奥之院までの36町石を設け、金剛界37尊とした。現在も梵字が刻まれた町石が残っている。はるばる参拝にこられた人々は、空海自身が登ったこの道にたどり着いたとき、どんな心持だっただろう。37尊、180尊を表す町石自体が信仰の対象で、1町ごとに合掌しながら登山したという。天皇、上皇から庶民まで参拝登山したこの道は、まさしく祈りの道、信仰の道であった。

さて、山上は天下の霊場117の寺院や堂塔大伽藍があり、天然記念物でもある奥之院参道の杉並木の下には、諸大名をはじめとする数十万基もの供養碑や歌碑、句碑がひっそりと立ちならび、心鎮まる別世界である。奥之院は大師信仰の聖域で、空海の廟所までの約2kmにわたる杉並木の参道が続き、重要文化財指定の経堂や、貧女の一燈がともる燈籠堂などがある。

金剛峯寺は全国に3600寺もある高野山真言宗の総本山で豊臣秀吉が母の菩提を弔うために建てた桧皮葺きの荘厳な建物。壇上伽藍は、本尊胎蔵界大日如来と金剛界四仏を安置する巨大な根本大塔を中心にして、御影堂、金堂などが立ち並ぶ。宇治平等院を模した優美な霊宝館は、山内諸寺に伝わる25,000点もの文化財を保管、展示している。国宝や重要文化財も多い。大門は高野山の総門で5間重層の表参道の大楼門。高野山町石道は、なお、ここから山内に入り、奥之院参道をへて御廟にいたる。
この道は、平成16年7月に世界遺産に登録された。

	町石番号	エリア	町石数		町石番号	エリア	町石数
奥之院側	1～36	高　野	36	慈尊院側	111	九度山	1
慈尊院側	1～90	高　野	90		112～115	かつらぎ	4
	91～95	九度山	5		116～120	九度山	5
	96	高　野	1		121～144	かつらぎ	24
	97～106	かつらぎ	10		145～147	九度山	3
	107･108	九度山	2		148～163	かつらぎ	16
	109･110	かつらぎ	2		164～180	九度山	17

凡例：トイレ／AED／休憩所／道の駅／朝日・夕日100選 見晴らしポイント／駐車場／携帯感度（docomo）アンテナ本数

春の花　真田庵……ボタン 4月下旬
慈尊院……サクラ 4月上旬～中旬
丹生官省符神社…サクラ 4月上旬～中旬
紙遊苑……ボタン 4月下旬
丹生都比売神社…サクラ 4月上旬～中旬
金剛峯寺……サクラ 4月中旬～下旬
金剛三昧院……シャクナゲ 4月中旬～下旬
夏の花　紙遊苑……菖　蒲 5月下旬～6月
秋の花　高野山周辺各所…紅　葉 10月下旬～11月中旬

高野七口（高野街道）

弘法大師空海入定以来、高野浄土信仰の広まりとともに、人々の参拝が盛んになり、参拝者がたどった高野山への道で、主な七つの道を高野七口とよばれていた。なお、高野山は女人禁制であったため女性は山内に入れず、各入口には女性のための籠り堂として女人堂がつくられ、女人信者は御廟を拝みたいと八葉蓮華の峰々をめぐる女人道をたどったといわれている。現在は不動坂口にのみ女人堂が残っているが、他の入口にも女人堂跡は残っている。

1 大 門 口　西口、大門また矢立口といわれ、和歌山口、麻生津口を含む道。
2 不動坂口　京口また学文路方面道を集約したもの。
3 黒 河 口　大和口または粉撞峠口ともいわれていた道。
4 龍 神 口　湯川口、保田口、梁瀬口ともいわれていた道。
5 相の浦口　南谷方面を指し、水上峠、大松峠などの道。
6 大 滝 口　熊野口ともいい、南のろくろ峠を含む道。
7 大 峰 口　東口、野川口を含む道。
■そ の 他　女人堂跡がある。

高野山町石道（世界遺産）と五輪塔

麓の慈尊院から高野山へ通じる180町の表参道を高野山町石道といい、開山のおり空海が木製の卒塔婆を建てて道しるべとした道で、鎌倉時代には、朽ちた木製の代わりに覚きょう上人の発願により、20年の歳月をかけて、石造の五輪塔形の町石が1町（109m）ごとに建てられた。
仏教では、「宇宙を形成する物質は、空・風・火・水・地の五つの要素からなる。」と説かれている。この五つの構成要素を宝珠、半月、笠、円、方形にかたどったものが五輪塔である。それぞれの部分に空・風・火・水・地を意味する梵字（サンスクリット文字）が刻まれている。
奥之院参道には、多くの五輪塔形の墓碑が見受けられる。

空 風 火 水 地

■上古沢駅
高野山町石道を歩くにあたって、九度山駅から高野山まで一気に歩く、健脚向きコースか、この駅を分岐点として分割で歩くといった楽しみ方もあります。
この場合は…
◎第１日目のルートとして
九度山駅～古峠～上古沢駅
（途中、丹生都比売神社を経由します）
◎第２日目のルートとして
上古沢駅～古峠
～大門～弘法大師御廟

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号　平16近複、第50号）